

貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(単位：千円)

| 資産の部 | | 負債の部 | |
|-------------|----------------|-----------------|----------------|
| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
| 流動資産 | 510,372 | 流動負債 | 268,096 |
| 現金及び預金 | 360,130 | 支払手形 | 21,031 |
| 受取手形 | 6,737 | 買掛金 | 135,389 |
| 売掛金 | 137,001 | 未払費用 | 14,919 |
| 商品 | 2,595 | 未払法人税等 | 12,398 |
| 貯蔵品 | 3,488 | 未払消費税 | 10,678 |
| その他 | 421 | リース債務 | 61,028 |
| | | 賞与引当金 | 11,300 |
| | | その他 | 1,350 |
| 固定資産 | 121,961 | 固定負債 | 47,462 |
| 有形固定資産 | 111,988 | リース債務 | 47,462 |
| 工具器具備品 | 13,608 | | |
| リース資産 | 98,379 | 負債合計 | 315,559 |
| 投資その他の資産 | 9,972 | 株主資本 | 316,774 |
| 繰延税金資産 | 3,298 | 資本金 | 30,000 |
| その他 | 6,674 | 利益剰余金 | 286,774 |
| | | その他利益剰余金 | 286,774 |
| | | | |
| | | 純資産合計 | 316,774 |
| 資産合計 | 632,333 | 負債・純資産合計 | 632,333 |

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券・・・時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算（時価のあるもの）定）によっております。

② 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品、原材料・・・主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定）によっております。

貯蔵品・・・最終仕入原価法によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産・・・定率法によっております。ただし、平成19年3月31日以前に取得したものについては、（リース資産を除く）償却可能限度額まで終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

② 無形固定資産・・・自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額（リース資産を除く）法によっております。

③ リース資産・・・リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については法定繰入率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上してしております。

② 賞与引当金・・・従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上してしております。

③ 退職給付引当金・・・従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における見込額に基づき、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を計上してしております。過去勤務費用は、主としてその発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理してしております。数理計算上の差異は、主として各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した翌事業年度から費用処理してしております。なお、年金資産見込額が退職給付債務見込額に未認識数理計算上の差異を加減した額を超過しているため、超過額を前払年金費用として長期前払費用に計上してしております。

(4) 収益及び費用の計上基準

売上高（工事関連売上高）は、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用してしております。

2. 当期純利益の額

当期純利益

62,328千円